【令和７年度（2025年度）特別支援教育総合推進事業「特別支援教育の体制整備の推進」】

第１回渡島教育局管内特別支援連携協議会

令和７年（2025年）８月19日発行

令和７年７月８日（火）、第１回渡島教育局管内特別支援連携協議会を開催しました。
本協議会では、令和７年度特別支援教育総合推進事業の推進、グランドデザインについて事務局から説明した後、渡島管内の特別支援教育の充実に向けて協議を行いました。

◆　令和６年度　渡島教育局管内特別支援連携協議会で確認された課題　◆

学びの場の柔軟な見直しを進めるためには、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善、克服することを目的とした「自立活動」の目標や指導内容について、関係機関が連携し、複数の視点で実態把握と定期的な評価を行い、校内支援委員会において適切な学びの場を検討するといった、段階的なプロセスを踏まえることが重要である。

◇　令和７年度の協議テーマ　◇

地域における就学後の学びの場の柔軟な見直しに向けて
～実態に応じた適切な学びの場と指導内容の具体～

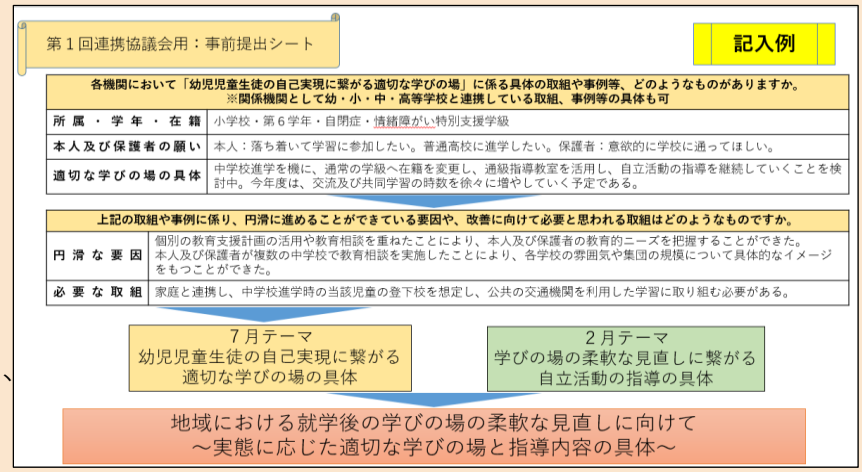
◇　第１回目の協議の柱　◇

～幼児児童生徒の自己実現に繋がる適切な学びの場の具体について～

【○成果　●課題】

○　幼児期から観察や教育相談を重ね、本人及び保護者の教育的ニーズを把握するとともに、小学校での指導体制及び環境整備の充実を図ることで、具体的な学びのイメージをもつことができた。

○　就労支援機関と連携したことで、本人の自己理解を深めることができ、適切な進路支援や進路選択を促すことができた。



第１回連携協議会用：事前提出シート　　記入例

各機関において「幼児児童生徒の自己実現に繋がる適切な学びの場」に係る具体の取組や事例等、どのようなものがありますか。 ※関係機関として幼・小・中・高等学校と連携している取組、事例等の具体も可	
所属・学年・在籍	小学校・第６学年・自閉症・情緒障がい特別支援学級
本人及び保護者の願い	本人：落ち着いて学習に参加したい。普通高校に進学したい。保護者：意欲的に学校に通ってほしい。
適切な学びの場の具体	中学校進学を機に、通常の学級へ在籍を変更し、通級指導教室を活用し、自立活動の指導を継続していくことを検討中。今年度は、交流及び共同学習の時数を徐々に増やしていく予定である。

上記の取組や事例に係り、円滑に進めることができている要因や、改善に向けて必要と思われる取組はどのようなものですか。	
円滑な要因	個別の教育支援計画の活用や教育相談を重ねたことにより、本人及び保護者の教育的ニーズを把握することができた。 本人及び保護者が複数の中学校で教育相談を実施したことにより、各学校の雰囲気や集団の規模について具体的なイメージをもつことができた。
必要な取組	家庭と連携し、中学校進学時の当該児童の登下校を想定し、公共の交通機関を利用した学習に取り組む必要がある。

７月テーマ
幼児児童生徒の自己実現に繋がる
適切な学びの場の具体

２月テーマ
学びの場の柔軟な見直しに繋がる
自立活動の指導の具体

地域における就学後の学びの場の柔軟な見直しに向けて
～実態に応じた適切な学びの場と指導内容の具体～

●　通常の学級に在籍を変更した後も、本人が困っている様子がないか、支援が必要な場面はないか等について校内で共有し、必要に応じて適切な支援を行う必要がある。

●　本人の過度な負担とならないような、計画的・段階的な交流及び共同学習への参加を促すとともに、学習に対して主体的に取り組む意欲を育む必要がある。

◇　第１回目の協議のまとめ　◇

□　「連続性のある多様な学びの場」の中で、個々の教育的ニーズに最も的確に対応できる「適切な学びの場」を検討する際には、まずは通常の学級において、「誰もが分かりやすい授業づくりができているか」といった視点で授業改善を図ることが重要である。また、通常の学級に在籍する特別な教育的支援が必要な児童生徒が増えてきている現状から、全ての学校の教員が、自立活動に関する理解を深める必要がある。

各委員の方々から発表いただいた、**「幼児児童生徒の自己実現に繋がる適切な学びの場」の具体**については、**「取組事例集」**としてまとめてありますので、ご参照の上、是非ご活用ください。